

旧新湊庁舎跡地利活用事業について

1 公募型プロポーザルの経緯及び審査結果

旧新湊庁舎跡地において、複合交流施設及び公共交通ターミナルの整備を行う事業者を公募型プロポーザル方式により募集したところ、1 者の応募があった。

有識者で構成する「射水市庁舎跡地利活用事業者検討委員会」により審査が行われ、その結果は次のとおりであった。

(1) 審査日程

平成 29 年 12 月 11 日	参加資格審査
平成 30 年 1 月 26 日	提案書の受付
平成 30 年 2 月 26 日	事業提案ヒアリングの実施

(2) 審査結果

最優秀提案者	大和リースグループ
	代表企業：大和リース株式会社 富山営業所
	構成企業：株式会社 三四五建築研究所

2 提案事業概要

(1) 事業内容

交通ネットワークの結節点、交流拠点となる『みんなと』の整備

(2) 施設計画	計画敷地面積	約 12,177 m ²
ア 複合交流施設	提案借地面積	約 5,285 m ²

【施設概要】

S 造平屋建て床面積 約 1,816 m²

(施設内訳)

(市の要求施設)

新湊地区センター、コンベンション施設、市民交流スペース、観光案内所
(事業者からの提案施設)

児童図書室、学習コーナー、ブラウジングスペース、料理スペース

イ 公共交通ターミナル	約 2,434 m ²
ウ 将来計画施設建設用地（公園として暫定利用）	約 1,400 m ²
エ 防災スペース・その他敷地	約 1,318 m ²
オ テナント棟	約 1,740 m ²

(3) 提案価格

ア 事業用地の賃貸料（m ² 単価）年額 649 円（市賃貸面積 約 5,285 m ² ）
イ 公共施設の賃借料（m ² 単価）月額 3,700 円（市賃借面積 約 1,816 m ² ）（税込）
ウ 公共交通ターミナルの設計・工事費 163,998,000 円（税込）

※記載内容は、すべて提案時点のものです。



鳥獣パース

全体配置図



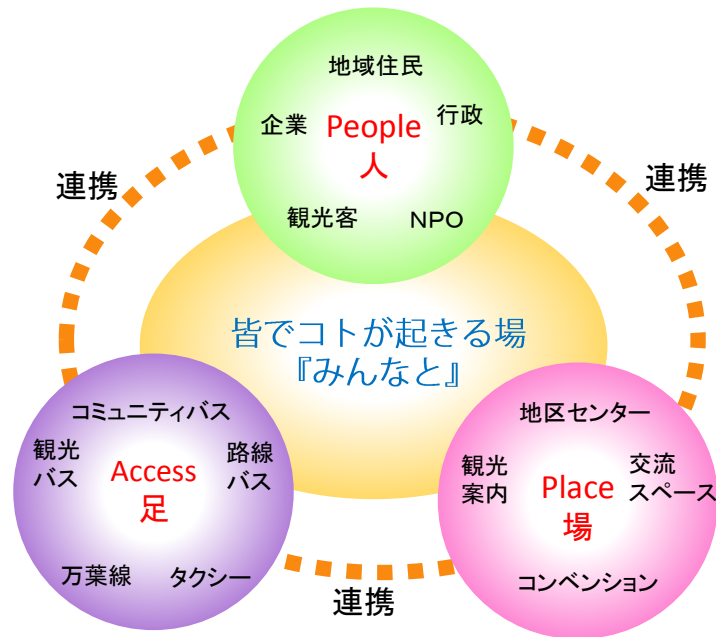
■計画コンセプト

交通ネットワークの結節点、交流拠点となる『みんなと』

本計画では、新湊地区の豊富な観光資源を活かし、安定的に交流人口を受け入れるため公共交通ターミナルと複合交流施設等からなる『みんなと』を提案します。

『みんなと』は全国各地からの交通ネットワークの結節点、射水市観光の玄関口であり観光客、市民、「みんな」にとっての『足』となります。また、地域住民と来訪者が「みんな」で交流できる『場』、「みんな」でボランティア活動やサークル活動などコトが起きる『場』となります。

『みんなと』が新湊地区や市内各所に活気と賑わいをもたらします。



※『みんなと』：新湊地区の『湊』には人や物を集める、水を集めるといったように『集める』という意味が含まれます。人や伝統、地域の特性が集積し、皆でコトが起きる場所を目指して、湊と皆を掛け合わせて『みんなと』を本施設名として提案します。

■観光資源に恵まれた新湊地区

歴史的資源や観光資源をつなぐ『みんなと』

新湊地区は江戸時代後半から明治初期にかけて「北前船」の寄港地であり、内川沿いは人口と産業の集積地として栄え、多数の社寺や水辺に浮かぶ漁船、連なる木造の町屋など、他地域に類を見ない景観を形成し、曳山祭りや獅子舞などの伝統行事も継承されてきました。

本計画では、万葉線『西新湊駅』－『内川』－『海』を結ぶ『大通り』を設け、複合交流施設と点在する歴史的・観光的資源をつなげ、『みんなと』が、交通のコア（核）の役割を果たし、観光客に対する観光資源への回遊性の向上を図ります。

また、地域住民と連携して新湊地区の魅力を更に高め、賑わいの創出に貢献します。



内川沿いの景観



獅子舞



海王丸と新湊大橋

■誰もが利用しやすい公共交通拠点

万葉線とも連携しやすい公共交通ターミナル

- 海、内川、西新湊駅を繋ぐ『大通り』を提案します。旧庁舎により分断されていた動線がつながり、公共交通ターミナルと万葉線の連携が強化され、高岡（新幹線－東京）とのアクセスも強まります。地域住民、観光客、双方の利便性が高まります。

イベントにも活用しやすい『大通り』

- 『大通り』は幅員8m程度と大きく確保することで、マルシェやお祭りなど様々なイベントに対応できる設えとします。

大通り沿いに設ける便利な庇

- 『大通り』には公共交通ターミナルから連続した庇を設置します。降雨量の多い富山でも天候を気にする事なく『みんなと』を利用できるとともに、各種イベント時にも役立ちます。



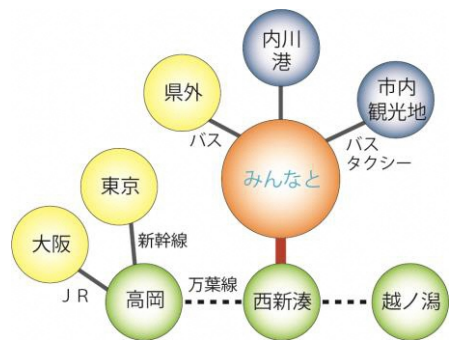
万葉線から海までを繋ぐ



フリーマーケット



万葉線(高岡駅)



交通結節点の役割

■情報発信の拠点

地元交通会社との連携<ご提案事項>

- 公共交通ターミナルとの連携に配慮して、海王交通(株)による観光コンシェルジュを配置し、訪れた人々に地域の魅力を十分に体感してもらうことで、観光客自らも新湊の魅力を全国に発信するコンシェルジュとなります。

地元ケーブルテレビ等との連携<ご提案事項>

- 計画地内に移転を希望する射水ケーブルネットワーク(株)や射水商工会議所と連携し、地域密着型の大小さまざまなイベントや市民活動を射水市全体に情報発信し、市民が訪れたくなる『場』を目指します。



海王丸パーク



きつときと市場



地域イベント



■交流拠点「みんなと」

多用途利用できるコンベンション施設

- コンベンション施設は会議利用だけでなく、落語などの催事にも対応。また、一部スポーツ用の床とすることでヨガや卓球等の軽運動にも対応可能な設えとし、地域住民が利用しやすい様々な交流イベント対応の場となります。
- コンベンション施設は子どもたちの遊び場としても活用します。雨や雪の日が多い富山では公園で遊べる日が限られています。予約のない日は施設を開放し、自由に体を動かせる場とします。



気の合う仲間とヨガ



軽運動もできるコンベンション



落語も開催可能

誰もが何度も利用したくなる児童図書室<ご提案事項>

- 児童図書室は乳幼児の遊びの場にもなります。ブラウジングコーナーを併設することで子どもたちを見守りながら大人が交流できる場としても活用できます。また、学習コーナーを設けることで、日常的に中高生の学習場所として利用できます。
- 児童図書室と公園をシームレスな空間とすることで、読書から交流、子どもの遊びまで様々な地域住民活動を受け入れられる施設計画としています。



遊び場にもなる図書室



学習コーナーも設置



公園でも読書

施設運営に地域資源(NPO)を活用<ご提案事項>

- 本施設のコンベンション施設の受付業務を代表企業が射水市より受託し、中間支援NPOに再委託します。これにより地域活動を支援し、自発的な地域独自発想の賑わい拠点づくりへとつなげます。
- 隣接する射水ケーブルネットワークや射水商工会議所と連携し、地域活動をPRする拠点とします。
- 料理スペースでは体験型観光も可能です。新湊の海鮮を活かした料理教室などが開催できます。



地元NPOによる活動



寿司教室のイメージ



海鮮丼



■地域コミュニティを育む『場』となる『みんなと』

日常生活を豊かにする『場』

- 地区センター、児童図書室、公園などの諸施設が一体的に整備されることで、多様な目的を創出し、楽しいひと時を過ごす『場』となります。
- ブラウジングコーナーや学習コーナーを設けた児童図書室は、子ども連れのファミリーだけでなく、多世代の市民が訪れ、世代を超えた交流の『場』となります。
- 児童図書室と公園はシームレスな空間とすることで、子どもたちが公園で遊ぶ様子を室内から見守り、木陰では読書を楽しめるような『場』となります。



絵本を楽しむ



気軽に歓談



親子で遊ぶ

『ハレ』の日にも役立つ『場』

- コンベンション施設は会議利用だけでなく、お祝いの『場』、サークル活動等の発表の『場』などとしても活用できます。
- 曳山まつりでは、『大通り』や複合交流施設の整備により、曳山を観覧するだけでなくマルシェの同時開催や観光資源のPRなどが行いやすくなります。



住民発表会



生け花展示会



地元特産品

地産地消や地域交流に貢献する料理スペース<ご提案事項>

- 料理スペースは新湊の豊富な海産物の調理にも対応可能な設えとし、地域の食文化の継承、地元食材を使用した子供たちの食育サポートの『場』として活用できます。また、郷土料理を通じた地域交流ができ、移住・定住促進にも貢献する『場』となります。



料理に挑戦



地元の魚で握る寿司



新湊かまぼこ



■観光産業と地域文化の振興に貢献

地元交通会社による観光案内を実施するPR拠点<ご提案事項>

- 公共交通ターミナルから分かりやすい位置に観光案内施設を設えます。観光案内業務を海王交通(株)に委託することで、旬の情報をきめ細やかに案内することができます。観光地だけでなく、地域の特産品や伝統など新湊の魅力を内外に発信し、地域経済の活性化につなげます。

地域住民にとっての伝統行事を支援

- 駐車場は曳山祭り開催時にも利用しやすい計画とし、これまでの機能を確保しながら祭りをより楽しめる設えとします。



地元交通会社との連携



内川沿いのカフェ入口



きっとと市場



新湊博物館



地元の鮮魚



魚セリ見学

■地域の活性化に貢献する『場』

マルシェ等にも挑戦できる『みんなと』

- 連続した底を持つ『大通り』では、地元住民やNPO等が気軽に底下でのマルシェや物販販売などを行えます。

地域コミュニティの活性化

- 児童図書室や公園は、子どもを安心して遊ばせやすい設えとするなど、子育て世代が利用しやすい環境とすることで、若年ファミリー層の来訪を促し、人口減少が進む内川周辺地区に活気をもたらします。



地元NPOによるイベント



軽トラマルシェ



楽しい児童図書室

■県産材の活用

地域に根差した空間づくり

- 建物には杉、アルミ製品などを使用し、県産材の活用に努めるとともに、地域の伝統を施設計画の様々なところにアクセントとして取り入れることで温かみと親しみのある空間とします。



内川かぐら橋